

ODA

発行 社会福祉法人 沖縄県身体障害者福祉協会
 編集 沖縄県障害者社会参加推進センター
 〒901-0516 沖縄県島尻郡八重瀬町字仲座 1038 番地 1
 TEL(098)851-3455 FAX(098)851-3855
 ホームページアドレス <https://www.okisin.jp>
 E メールアドレス okisinky@blue.ocn.ne.jp
 頒価一部 100 円 (会費に含まれています)

沖縄県障害者社会参加推進センターだより 第 73 号

沖縄県障害者社会参加推進協議会

令和 7 年度沖縄県障害者社会参加推進協議会の第 1 回を令和 7 年 1 2 月 2 2 日 (月)、沖縄県総合福祉センター第 2・3 会議室にて、第 2 回目を令和 8 年 3 月 1 9 日 (木)、沖縄県総合福祉センター視聴覚室において行ないました。

第 1 回では、『更生相談所』の名称変更について、沖縄県共生社会づくり条例に関するアンケートについての経過報告、市町村における地域生活支援事業の実施状況(とりわけ重度訪問介護利用者の大学修学支援について)の報告及び意見交換を行ないました。



第 2 回では、各団体における令和 7 年度実施事業報告と令和 8 年度事業計画、共生社会条例に関するアンケート結果についての報告を行い、各団体との情報共有を行いました。共生社会づくり条例のアンケートは、条例見直しの検討材料とするため、令和 7 年 1 2 月 1 日～令和 8 年 2 月 1 5 日までの間、当事者、家族、福祉従事者、一般企業など幅広く実施されました。しかし、先天性のろう者など文字情報が苦手な方に向けた【手話映像等】の情報保障まで至らなかったことなど、周知に関する課題が残りました。詳細な分析結果は、4 月頃に沖縄県のホームページで公開予定となっていますので、公開の折にはご確認をよろしくお願い致します。



沖縄県聴覚障害者協会

手話フェスティバル in 那覇 (第 4 2 回耳の日記念大会)

令和 8 年 3 月 7 日 (土) 沖縄県総合福祉センターゆいホールにて、手話フェスティバル in 那覇 (第 4 2 回耳の日記念大会) を開催し、約 2 0 0 名の参加者で盛り上がりました。



第一部式典は、当協会の城間枝利子会長が「手話使用者が日常生活・社会生活を円滑に送れる共生社会を目指します」とあいさつを述べました。来賓祝辞では、沖縄県、沖縄県社会福祉協議会、沖縄県身体障害者福祉協会の方々より聴覚障害に対する県民の理解が一層と深まる事への期待とろうあ活動によせる心温まる励ましのお言葉をいただきました。

第二部講演は【日本手話とろう文化】と題して、NHK『みんなの手話』の執筆・手話監修として活躍する、数見 陽子 (かずみ あきこ) 氏が、手話も 1 つの言語であること、ろう者たちの世界である素晴らしい『ろう文化』が存在していることを表情豊かに分かりやすくお話ししました。

昨年 6 月に『手話施策推進法』が成立したのを機に、これからも県民や福祉関係者等にろう者の文化・啓蒙などの認知を広めながら、手話フェスティバルの開催を継承し、年齢層等に関係なく障がいのある人やない人など、誰にでも幸せに暮らせる共生社会を実現したいと思います。

沖縄県手をつなぐ育成会

第32回沖縄県ゆうあいスポーツ大会



令和7年10月25日（土）沖縄県総合運動公園にて、第32回沖縄県ゆうあいスポーツ大会を開催しました。この大会は、知的障がいのある人の社会参加と交流を促進することを目的としており、長年にわたり継続している大切な大会です。今年は多くの来賓の方々をはじめ、八重山地区を含む43団体、合計1107名の選手が参加しました。

大会当日は、さまざまな競技が行われ、短距離走の50m走や、100m走、200m走や4名×100mリレーといったトラック競技に加え、幅跳びやフライングディスク、また2年前から実施されているウォークラリーを行いました。ウォークラリーは、近年の参加者の高齢化に伴い参加者が増加しており、人気の種目となっています。

障がいのある人の社会参加を推進するためには、「共助」「公助」「自助」の三つの柱が重要です。地域で助け合う「共助」、行政が支援する「公助」、そして本人や家族が備える「自助」があり、これらをバランスよく推進することが求められると同時に、障がいのある人自身の意識向上も重要な要素となります。

本大会は、知的障がいのある人々の社会参加を促進するとともに、スポーツ技術の向上や仲間との親睦、さらには県民への障がい特性に対する理解と啓発を目的としており、これまで32回行った大会において、地域の理解と支援を深めてきました。スポーツは、その結果に関わらず、参加者に喜びや楽しさをもたらします。練習や大会を通じて築かれる人間関係は、互いを尊重し支え合う、共生社会の実現に向けて大きな役割を果たします。

障がいの有無に関わらず、誰もが地域で豊かに暮らせる社会の実現を願っており、障がい者と健常者が共に支え合い、理解し合う共生社会の構築に向けて、今後も取り組んでまいります。



沖縄県精神保健福祉会

地域生活体験事業のご紹介

沖福連では、沖縄県から委託を受けて『精神障害者入院患者に対する地域生活体験事業』を実施しています。

当事業は、精神科に入院中の方が、病院の外に出て実際の地域生活を体験することを通して、退院に向けたイメージ作りや、その人ごとのチャレンジができるようにサポートを行なうものです。

現在、久田病院に入院中の安里さんは、今年度実際に地域生活体験事業をご利用いただいている一人です。知人から事業のことを教えてもらったという安里さんは、退院に向けた一歩として事業の利用を始めてみました。

まず退院後は「作業所などで働こうかな」というイメージがあり、思い描く仕事の内容としては「パン作り」があったので、病院からも近い就労支援事業所『てるしのワークセンター』を体験事業所として選びました。はじめのうちは当初の予定通りにパン作りの作業だけに参加していましたが、しだいに他の作業にも挑戦するようになり、いまでは紅型染めのお仕事がいちばんのお気に入りになっています。



作業だけでなく、休憩時間にはパソコンでインターネットを使ったり、また美味しいお昼ご飯も楽しむということ（安里さんが来る日にはたまたまデザートがつくことが多いそう）。

朝は難儀に感じるときもありますが、利用するともらえる手当も日々の励みになっています。

いまの時点での感想としては「ちょっとできたかな」「まだまだかな」。また今後はもっと外に出て、散歩なども頑張りたいそうです。

【地域生活体験事業のご相談やお問い合わせは、098-889-4011（担当：比嘉）まで。

沖縄県視覚障害者福祉協会

第 38 回 沖縄県視覚障害者サウンドテーブルテニス大会

令和 8 年 1 月 1 8 日 (日)、豊見城市民体育館において標記大会を開催しました。当日は離島からの参加者や学生を含む 2 3 名の選手が参加し、男女ともに手に汗握る白熱した試合が行なわれました。本大会は、令和 8 年 1 1 月に沖縄県で開催される『第 5 4 回 九州視覚障害者サウンドテーブルテニス大会』の選考会も兼ねており、今回、代表選手に選出された皆さんには、九州大会に向けて、さらなるレベルアップに励んでいただきたいと思います。大会結果は以下の通りです。



【全盲男子の部】 1 位 瑞慶覧元気(うるま市)

2 位 野甫哲也(宜野湾市) 3 位 我謝勇(うるま市)

【弱視男子の部】 1 位 宮城朗(那覇市)

2 位 大浜用忠(那覇市)

【全盲女子の部】 1 位 伊良波克子(宮古島市)

2 位 伊禮恵美子(うるま市) 3 位 金城美千代(伊江村)

【弱視女子の部】 1 位 又吉肖子(宜野湾市)

2 位 宮城初子(那覇市) 3 位 津波古やよい(中城村)

沖縄県友声会

音声機能障害者発声訓練及び個人指導・相談(発声塾)

喉頭がん、咽頭がん、舌がん、食道がん、甲状腺がん等による喉頭全摘者で音声機能障がいの方を対象とした【発声訓練・個人指導等】です。

開催日時	開催場所
毎週土曜日 (14:00~16:00)	サン・アビリティーズうらそえ (浦添市宮城 4-11-1)

発声方法の紹介や会場地図、その他の問合せはホームページをご覧ください(右下のQRコードの読取りをお願いします)、下記への連絡をお願いします。

【問い合わせ先】

・社会福祉法人 沖縄県身体障害者福祉協会

TEL: 098-851-3455

携帯: 090-8294-2290 (比嘉)

E-mail: taiki10@okisin.jp



沖縄県友声会ホームページ →

沖縄県警察よりお知らせ

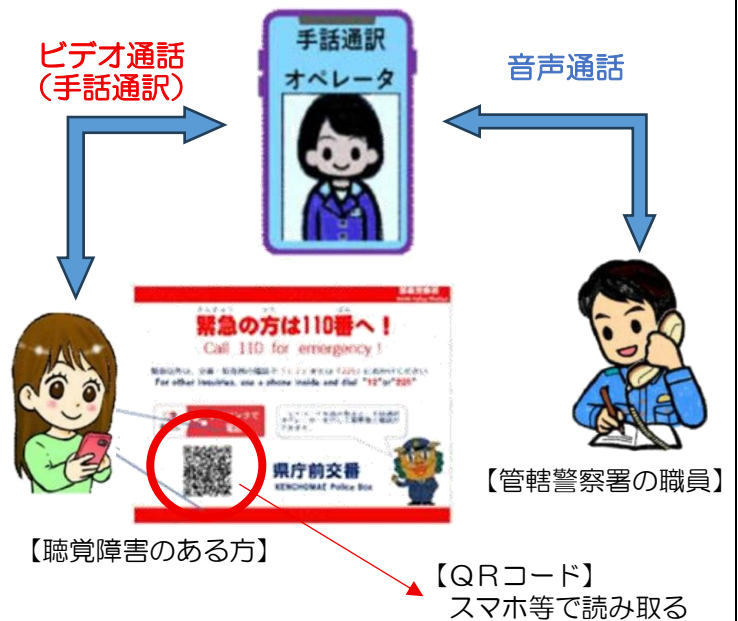
『手話リンク』の運用開始

令和 8 年 2 月 1 0 日から、県内全ての交番、駐在所、警備派出所、警察官詰所において、一般財団法人 日本財団電話リレーサービスが提供している『手話リンク』の運用を開始します。

○手話リンクとは…

聴覚障害等のある方が、交番や駐在所等を訪れた際に勤務員が不在の場合、交番や駐在所等に掲示されているQRコードをスマートフォン等で読み込んでいただくことで、手話通訳オペレーターを通じて管轄警察署の職員と会話をする事ができる取り組みです。

○利用のイメージ図



○注意事項

1. 基本的に電話リレーサービスは離れた場所にいる相手に電話をかけるときに利用するサービスで、各警察署に来所、交番や駐在所等に勤務員がいる場合は直接ご用件をお伝えください。

2. 手話リンクは事前登録なしで利用料は無料でご利用いただけます(ただし通信料は利用者負担となります)。

3. 手話リンクは発信専用です。





おきしんきょう通信

— 沖縄県身体障害者福祉協会 —



経営理念

一、利用者本位

一、社会貢献

一、責任と実行

令和7年度

第2回市町村身体障害者協会長会議

令和8年2月25日(水)南風原町立中央公民館 黄金ホールを会場に標記会議を開催しました。まず、当協会の今年度の事業経過報告、次年度の行事計画について連絡を行ないました。その中で、九州大会のフィードバックを行ない、参加した方々からレポート報告や感想をいただきました(本誌6P参照)。地域活動支援では、豊見城市身協から「ボッチャやモルックを行なうときや、パソコン操作の面で沖身協のお世話になっている。いつもありがとう」とのコメントをいただきました。



会後半では【障害について学ぶ/失語症及び失語症者向け意思疎通支援者派遣事業】をテーマに沖縄県言語聴覚士会及び『ことばとコミュニケーションの相談室カラフル』に所属する東優奈氏をお招きし、講話をいただきました。失語症に関するクイズを導入として、失語症になる原因から、【聞く】【話す】【読む】【書く】それぞれの場面での障害について丁寧に説明いただき、実際の失語症者との会話音源を聞くことで理解を深めていきました。また、失語症者が日常生活で感じる困りごと及び、コミュニケーションをとる際の工夫から意思疎通支援者派遣事業について説明を受けました。参加者からの質疑も多く、皆さんの失語症への関心の高さを感じました。



令和7年度

障がい者防災ミーティング

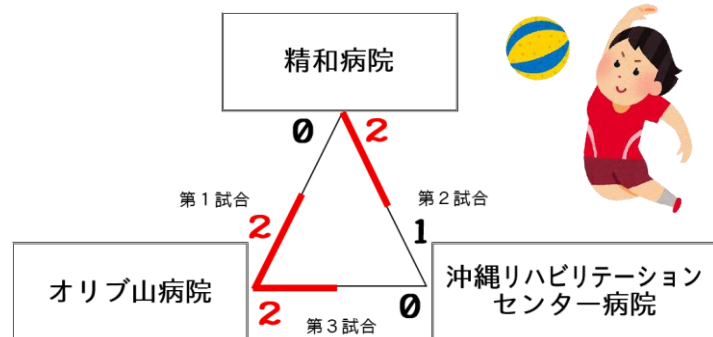
令和8年2月25日(水)南風原町立中央公民館 黄金ホールにおいて標記講演会を開催しました。障がい者における防災のあり方を当事者及び支援者それぞれの視点から学び、相互に支えあう共生社会の実現と障がい者の社会参加を促進することを目的に、今年度は【インクルーシブ防災～私たちができること・すべきこと～】をテーマに社会福祉法人AJU自立の家から水谷 真氏を招き【インクルーシブ防災と地域の助け合い～すべての人に配慮した災害対策～】の講演と、『地域防災力アップに向けた取り組みについて』という内容で、特定非営利活動法人 沖縄市障がい者福祉協会と宜野座村障がい者家族会ひるぎの会から地域での防災取り組みについて事例報告をいただきました。

当日は県内各地から108名の参加がありました。参加者の大多数は福祉関係者でしたが、他の職種の方も幅広く参加されており、障がいを持つ方の現状を理解し、共感を深める貴重な機会となったと思います。講演や事例報告の中では、『地域との関わり方・連携』という事が常にキーワードに上がり、それが防災における現在の課題となっていると考えられます。今後は、障がい者への理解と支援を深めつつ、『自助・共助・公助』の連携を強化し、地域全体で防災活動を推進していくことが必要となるので、それぞれの地域で工夫した取り組みが期待されます



第9回こころんピック

令和 8 年 1 月 1 5 日 (木) 沖縄市体育館にて『第 9 回こころんピック (沖縄県精神障害者ソフトバレーボール大会)』を開催しました。本大会は、第 2 5 回全国障害者スポーツ大会精神障害者バレーボール競技九州ブロック地区予選会 (6 月・福岡市) に出場する県代表チームを決定する予選会として位置付けられ、県代表の権利を賭けた熱戦が繰り広げられました。3 チーム総当たり戦で見事 2 勝をあげた『オリブ山病院チーム』が 3 年連続九州予選会へ出場します。開催にあたり多大なご協力を賜りました沖縄県バレーボール協会さま、誠にありがとうございました。



全国障害者スポーツ大会団体競技 担当者連絡会

令和 8 年 2 月 6 日 (金) 沖縄協議室にて標記会議を開催しました。

本連絡会は 3 障害 7 競技のチーム代表者が集まり、各競技団体の活動状況を共有しつつ、例年 4 月から 6 月に九州各県で行われる全国障害者スポーツ大会 (団体競技) 九州ブロック地区予選会に関する情報収集および発信の場として設けており、2 回目の開催となる今回も活発な意見交換ができました。今後も定期的に集会の場を設け、選手発掘・チーム育成に向けた協力体制を整えてまいります。



ちゃんぷる〜Paraフェスタ 2025

令和 8 年 2 月 1 4 日 (土) 豊見城市民体育館にて標記行事を開催しました。このイベントは障害のある人もない人も広い世代の多くの方に参加してもらうことで障害者団体や地域団体の活動を知り、障害者の社会参加、共生社会の促進を目的としており、豊見城市共催のもと開催しています。



今回も障害福祉事業所等による製作品の販売、ブラインドサッカーやスラロームなどのパラスポーツをはじめとする様々な体験ブース、作品展など多種多様な内容に、関係各位の協力のもと車いすサッカーやジャグリング体験、装具展示コーナーなど、新しいブースや仲間が加わり、回を重ねるごとにバージョンアップしています。



ダンスや楽器演奏、エイサー演舞などのステージの司会は、音楽活動・ラジオのパーソナリティーをつとめデビュー 2 0 周年となるハートフルシンガー大城友弥さんが務め、会場を大盛り上がりとなりました。開催にあたりご協力いただきました皆様のおかげで、様々な体験ができる機会の創出ができたと感じております。ありがとうございました。



第54回九州身体障害者福祉大会および 第32回九州ブロック身体障害者相談員研修会

令和8年1月22日（木）～23日（金）にかけて、標記大会が北九州国際会議場で開催されました。初日の第1研究部会では【障害者差別解消法の理解・啓発に関する地域の取組と合理的配慮】について事例報告がありました。佐賀県／門井氏は、グラウンド・ゴルフのプレー中に別の障害者のプレーを非難する場面を取り上げ、同じ障害者にバリアを張っている様子に苦言を呈しました。長崎県／松尾氏は、風船バレーをするため、毎週、大村市～長崎市へ通っていた車いす利用者のために大村の駅にエレベーターを設置するまでの流れを報告されました。福岡市／市原氏は、障害者差別や合理的配慮の意味が一般に知られていないと述べ、障害当事者が出向いて普及啓蒙していく必要があると話されました。

第2研究部会では【障害者相談員の地域との連携と活動活性化について】がテーマとなっていました。福岡県／木村氏は、会員数の減少によって弱体化している現状を打破するために、他団体との連携をはかり組織強化する必要性を話されました。熊本県／北本氏は、会員数を増やすため、異なる障害を持つ方々の特性に合わせた事業計画を行なうことで組織強化につながっていると報告されました。鹿児島県／中釜氏は、難病支援団体が開催したピアサポーター講座を受講し、いろいろな障害種別の相談事例について話されました。

2日目は表彰式典から始まりました。沖縄県からは特別表彰として沖縄県身体障害者福祉協会 評議員の豊平朝清氏が、組織活動功労表彰として

うるま市身体障がい者協会 会長の古謝敬氏が受賞しました。後半では【障害のある人の災害時の支援について】のテーマでNHK北九州放送局記者／背戸氏が自閉症児の車中泊避難について話されました。また【避難サポートモデル調査事業について】のテーマで北九州市危機管理室危機管理課災害対策係／八谷氏は、自力避難が困難な方々の名簿を作成し、福祉施設や事業所、タクシー営業所等にサポートを依頼する取組を話されました。今回の大会・相談員研修会は時宜にかなったタイムリーなものでした。



わったーしんかぬちゃー

★地域身障協や関係団体のご紹介★

今回は、あんまマッサージ指圧・鍼・灸マッサージをお仕事に現役で活躍する豊平会長が率いる糸満市の紹介です。

【糸満市身体障害者協会】



（豊平 朝清 会長）



【会員数】会員 8 名
賛助会員 8 名

【活動紹介】



- ・定期総会 ・役員会／年 4 回程度
- ・趣味、教養講座（陶芸教室など）
- ・宿泊研修 ・視察研修 ・社会見学
- ・沖縄県身体障害者スポーツ大会等の参加
- ・沖縄県身体障害者福祉展や
心の芸術文化フェスティバル in 糸満への出展
- ・九州ブロック身体障害者相談員研修会派遣



【一言コメント】

糸満市身体障害者協会は令和8年度で50周年を迎えます。当協会では趣味・教養講座として『陶芸教室』を開催しています。土をこねることで指先を動かし、創造力を高めてみませんか？

【問い合わせ】

住所：糸満市真栄里 857（糸満市社協内）
TEL：098-994-0563

※その他の市町村身体障害者協会へ連絡を取りたい！
と思う方は、沖縄県身体障害者福祉協会へお気軽に
お問い合わせください！お待ちしております！

TEL：098-851-3455 FAX：098-851-3855
MAIL：okisin.sub@gmail.com